

平成21年4月30日現在

研究種目： 基盤研究（A）
研究期間： 2006～2009
課題番号： 18202019
研究課題名（和文） 日本・朝鮮間の相互認識に関する歴史的研究

研究課題名（英文） Historical Studies on Mutual Understanding between Japan and Korea

研究代表者

吉田 裕（YOSHIDA YUTAKA）
一橋大学・大学院社会学研究科・教授
研究者番号：20166979

研究分野： 人文学

科研費の分科・細目： 史学・日本史

キーワード： 日本史 朝鮮史 歴史認識 日朝関係史 日韓歴史共同研究 国際情報交換

1. 研究計画の概要

（1）本研究では、東アジア世界の中の日朝関係に焦点をあわせ、日本の側の対朝鮮認識がどのようにして歴史的に形成されたのかという問題を朝鮮の側の対日本認識の形成と関連させながら、歴史具体的に明らかにしたい。

（2）5つの研究項目班、A班（日朝外交・日朝貿易をめぐる相互認識）B班（豊臣秀吉の朝鮮侵略をめぐる歴史的記憶）C班（中世・近世、近代における日朝両国の経済構造をめぐる相互認識）D班（親族制度と社会構造をめぐる相互認識）E班（日本の朝鮮植民地支配期における「知」のあり方）を設置して研究を深めるとともに、この研究課題を達成するために、韓国の歴史研究者との研究交流や共同研究を行っていく。

2. 研究の進捗状況

（1）5つの研究項目班それぞれが、班の計画に応じて韓国及び日本で現地踏査や史料調査・収集を行ってきた。

（2）分担者・連携研究者及び研究協力者が集う「日韓相互認識」研究会をこれまで11回開催した。研究会では、それぞれの研究成果を持ち寄る報告するとともに、2008年度には韓国から南相九（東北アジア歴史財団研究員）氏を招聘し、「韓国政府傘下の「過去事」関連委員会の現況と歴史認識」についてご講演いただき、議論した。

（3）韓国の日本史・朝鮮史研究者（ソウル大学校を中心とする研究者）との研究交流のために、日韓歴史共同研究プロジェクト・シンポジウムを毎年一回開催した。第3回シンポジウム以来、日韓両国における歴史研究の

現状と課題に関して相互に認識を深めるため、日本史、朝鮮史、日朝関係史上の重要な論点を逐次取り上げて、率直に議論をおこなっていくことを課題として、シンポジウムを開催している。2006年度は東京を会場に第9回シンポジウムを開催し、日本側・韓国側それぞれ二本ずつ報告を準備した。2007年度は韓国・慶尚南道で戦争関連遺跡の日韓共同踏査を行うとともに、第10回シンポジウムを開催した。2008年度は、長崎県対馬島を会場に、島内の戦争関連遺跡の共同踏査を行うとともに、第11回シンポジウムを開催した。

（4）シンポジウムの成果を収載した報告書を印刷し、各研究機関等に配布した。

（5）本プロジェクトの研究成果を公開するため、雑誌『日韓相互認識』を創刊し、現在までに第2号を刊行した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）

これまで10年にわたって韓国側の歴史研究者と連携しつつ、毎年相互交流の機会を持ち、信頼関係を醸成してきた。その上で、共同で日朝・日韓の交流（あるいは戦争）に関する遺跡を踏査して、歴史認識をめぐって討議することができ、着実な成果を挙げていると思う。シンポジウムの成果を収載した報告書の他に、雑誌『日韓相互認識』を発刊出来たことは、当初の計画では想定していなかったことであり、当初の計画以上に進展していると思う。

4. 今後の研究の推進方策

（1）5つの研究項目班それぞれが、班の計画に応じてフィールドワークを行い史料を

収集し、研究を進める。

(2) それぞれの班での研究成果をもちよって、本研究参加者による共同研究会を開催する。

(3) 第12回日韓歴史共同研究シンポジウムを韓国の済州島で開催し、あわせて済州島の戦争関連遺跡の共同踏査を行う予定である。

(4) シンポジウムの報告書を関連するとともに、雑誌『日韓相互認識』を編集し、刊行する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計41件)

- ① 池享、豊臣秀吉像の創出、東北亜歴史財団編『戦争と記憶の中の韓日関係』景仁文化社(韓国)、査読無、165-221、2008
- ② 吉田裕、現代日本人の戦争認識と日中戦争、人民の歴史学、175号、査読有、1-9、2008
- ③ 李成市、植民地文化政策の評価を通してみた歴史認識、三谷博・金泰昌編『東アジア歴史対話 一 国境と世代を越えて』東大出版会、査読無、187-206、2007
- ④ 吉田裕、加害の『忘却』と日本政府、森村敏己編『視覚表象と集合的記憶』旬報社、査読無、237-253、2006
- ⑤ 糟谷憲一、日韓歴史共同研究を素材に歴史認識に関わる交流の課題を考える、メトロポリタン史学、2号、査読無、79-91、2006

[学会発表] (計10件)

- ① 三ツ井崇、三・一独立運動前後史にみる「民族」—教育・文化の側面から—、日本植民地教育史研究会第12回大会、2009年3月28日、龍谷大学
- ② 辻弘範、在朝日本人の日常生活—上甲米太郎日記を読む、研究集会 2008 植民地朝鮮で蒐集された「知」の歷程、2008年12月6~7日、九州大学韓国研究センター
- ③ 木村直也、東アジアの中の近世日朝関係史、九州国立博物館・朝鮮通信使400年記念国際シンポジウム「アジアのなかの日朝関係史」、2007年12月15日、九州国立博物館
- ④ 池享、豊臣秀吉像の創出、2007年度韓日関係史学会国際学術大会「戦争の記憶の表象としての韓日関係」、2007年12月7日、ソウル歴史博物館
- ⑤ 山内民博、降倭と向化、第10回日韓歴史共同研究シンポジウム、2007年12月22日、韓国慶尚南道統営市忠武観光ホテル会議室

[図書] (計5件)

① 小川和也、牧民の思想—江戸の治者意識、平凡社、390頁、2008

② 吉田裕、アジア・太平洋戦争、岩波書店、238頁、2007

③ 吉田裕、森茂樹、戦争の日本史23 アジア・太平洋戦争、318頁、2007

④ 加藤哲郎、情報戦と現代史、花伝社、407頁、2007

⑤ アンドレ=シュミット著、糟谷憲一・並木真人・月脚達彦・林雄介訳、帝国のはざまで—朝鮮近代とナショナリズム、330頁、2006

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

一橋大学機関リポジトリ

<http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/>